

大田元知事と知念さん対談

いま問う「戦争と平和」

沖繩の「平和」をどう実現するか。元県知事の大田昌秀



さんと、むぬかちやーの知念ウシさんの公開対談「いま問う『戦争と平和』」(主催・実行委員会)が12日、沖縄国際大学で開かれた。沖縄が二度と戦争に巻き込まれることのないように、「ヤマト」に対して問題提起を続けることが大事だという点で一致した。

大田さんは「沖縄が誇ることができるのは平和を大事に思う気持ち。世界中で戦争が起こっているが、止められないと諦めてしまっってはいけない

沖繩の平和をどう実現したらよいか、意見を交わす知念ウシさん(右)、大田昌秀さん。沖繩国際大学

い。一人一人の力を合わせればできる」と決意した。

知念さんは、小学校高学年の時読んだ沖繩タイムスに、大田さんが寄稿で「沖繩は戦争ですべてを失ったが、一つだけ手に入れたものがある。それは平和を求める心」と書いていたことに感動したと回想。「沖繩の平和を求める心

「ヤマトに問題提起続けよ」

は、平和でない現実を諦めることなく、実現しようと70年近く抵抗を実践している先輩方が育んでいる。若い人にも抵抗することで私たちの尊厳が守られるんだ、と伝えたい」と応じた。

大田さんは、ノルウエーの政治学者、ヨハン・ガルトウングが、戦争という直接的暴力がなくても、貧困や差別と

いった構造的暴力がある状態をなくするのが「積極的な平和」だとしたことを紹介。知念さんは安倍晋三首相が集団的自衛権を認め、憲法を改正し武力を持つことを「積極的な平和主義」と語っていると指摘した。

大田さんは「沖繩ほど憲法と関係の薄い都道府県はない

知念さんは「日本人の大部分が憲法をいらないと言った時、憲法を一度も持ったことのない少数の私たちがどう守れるだろうか」と問い掛け、大田さんに「沖繩は日本の植民地ですよ」と迫った。

大田さんは「沖繩はもちろん植民地です。日本と米国の二重の植民地なんです」と答

え、「残念ながら民主主義は多数決の原理を元にしており、沖繩という小指の痛みは全身の痛みにならない」と話した。

そして語気を強め「沖繩は戦争の防波堤や政治的取引の具になつてきた。人間扱いされず、他人の手段として、物として供されてきた。われわれは物ではない、人間だ。沖

繩は無人島ではない」。独立論について「沖繩より小さい国があるし、軍隊を持たない国がある。まだ結論は出していないが、自分の運命は自分で決めていくことが大事だ」とした。

知念さんは「沖繩の物扱いは続いている。子どもたちを戦争にとられたくないし、人を殺させたくない。沖繩の基地がこのままの状態であるのは本当に嫌」と吐露。「艦砲ぬ喰えーぬぐさー(戦争の生き残り)」というのが沖繩の立場性。これを子どもたちに引き継いで行かなくてはならない」とし、「日常生活の中で立場性の違う(ヤマトンチュ)に對し意見を言っていくと、沖繩人の力になる。言葉が下手だからといって気後れすることはない。たくさん考えている私たちは頭がいいのだから」と呼び掛けた。